

植込みデバイス患者の MRI 検査に関する注意

2016年9月23日

日本医学放射線学会 (JRS)

日本磁気共鳴医学会 (JSMRM)

日本不整脈心電学会 (JHRS)

近年、不整脈治療デバイスをはじめとした条件付き MRI 対応の体内植込み型心臓デバイスが普及してきましたが、植込みを行なった診療科（循環器科など）、検査現場（放射線科、MRI 室）、あるいはデバイス装着患者やその家族などによるデバイスと MRI 検査に対する誤解等により、MRI 非対応デバイス装着患者に対して MRI 検査が計画され、実施されかけたという報告が増加しています。また条件付き MR 対応デバイスに対しても不適切な条件で検査が行われる例も多く発生しています。特に MRI 非対応デバイス装着患者については、欧米では死亡事故も起きています(1-2)。

植込みデバイス装着患者の MRI 検査に際しては、まず貴施設が施設基準を満たしているかを確認したのち、検査予約の前には当該デバイスが条件付 MRI 対応デバイスであるかどうかを必ず厳密にチェックする必要があることを、改めて周知徹底していただくようお願いいたします。また、条件付 MRI 対応デバイスである場合には、どのような条件であれば安全な検査が行なえるのか、添付文書等で正確に理解して頂き、不適切な MRI 検査を行なうことのないよう十分注意して下さい。

参考文献

(1) Bovenschulte H, Schlüter-Brust K, Liebig T, et al. MRI in patients with pacemakers: overview and procedural management. Dtsch Arztebl Int 2012;109:270–275.

(2) Roguin A, Schwitter J, Vahlhaus C, et al. Magnetic resonance imaging in individuals with cardiovascular implantable electronic devices. Europace 2008;10:336–346.